

徳山高専だより

Tokuyama College of Technology

2003年度 No.57



徳山工業高等専門学校

目次

| | |
|----------------------------------|----|
| 巻頭言 | 1 |
| この動きに注目！ 2003徳山高専十大ニュース | 2 |
| ホームページ Top News で綴る徳山高専この1年!! | 3 |
| 就職・進学状況 | 10 |
| 就職試験・進学試験体験記 | 13 |
| 卒業生だより | 15 |
| 退官者紹介 | 20 |
| 新任者紹介 | 22 |
| 資格取得支援 活用のチャンスはあなたにも | 25 |
| いよいよ独立行政法人化！ 「独立行政法人化」に関するQ&A | 26 |
| お知らせ 「徳山高専夢広場について」 | 27 |
| 編集後記 | 28 |



ながれ

この動きに注目!

2003 徳山高専十大ニュース

1. 東宝映画「ロボコン」のロケと公開

徳山高専を舞台にした映画が製作され、徳山高専の学生等がエキストラ出演しました。また、秋の公開に向けて、周南地域が大いに盛り上がりました。

2. 技術者教育認定（JABEE）の受審

1月の試行審査結果を踏まえて教育改善に努めたこともあり、11月に行われた本審査においては、満足のできる結果が得られました。

3. 総合企画室及び学習・教育レビュー室の設置

来年4月、独立行政法人になることに対応して、学校運営及び教育改善を計画的かつ総合的に行うための組織を整備しました。

4. 英語 e-learning システムの整備と外部資格取得奨励制度の新設

学習意欲と自信を高めることを目的に、英語や専門に係る外部資格に挑戦する学生を支援する設備・制度を充実させました。

5. 専攻科生長期（3ヶ月）のインターンシップ実施

長期インターンシップは、従来（1ヶ月）に比べ、受け入れ企業の方からも学生自身からも好評でした。報告会には、地元企業や他高専等から百人を越す参加がありました。

6. 徳山高専夢広場の運営と新装

3月まで旧サティで実験的に開設していた徳山



高専夢広場は、地元の方々のご支援を受け、銀座2丁目の一番街に、11月から、本格的にオープンしました。

7. 徳山高専紹介DVDの制作と 実体験型オープンスクールの実施など

より徳山高専を知ってもらうために、「徳山高専紹介DVD」を制作しました。

また、実体験型オープンスクールは、中学生のみなさんに、高専生活の面白さを実感してもらうことができ、好評でした。

なお、遠方からの受験生に考慮し、今年から、下関と岩国にも徳山高専の入試会場を設けました。



8. 野球部17年ぶりのベスト8

阪神タイガースの優勝に匹敵する快挙。また、陸上部、バレー部、卓球部なども全国的な活躍をしました。

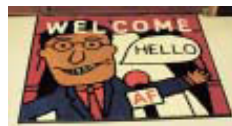
9. 技能五輪に初参加

平成17年に、山口県で開催される大会を目標に、今年の新潟大会に学生3人が出場しました。その他、各種コンテストで徳山高専生が賞を多数獲得しました。



10. 校内土足解禁

解禁に合わせ、校内各入り口に、学生がデザインしたオリジナルマットを敷きました。平成17年



9月に、徳山高専で開催される国際会議の準備の一歩にもなりました。

ホームページ Top Newsで綴る 徳山高専この1年!!

工学(融合複合・新領域)関連分野でJABEE試行審査を受審

2003.1.9-10



徳山高専ではJABEEの試行審査を受けました。プログラム名は「設計情報工学」、全校でひとつのプログラムを構成しています。審査団は工藤和彦審査長(九州大学大学院教授)を含む6名で、2日間にわたり授業参観、試験答案などの検分、在校生・修了生や教員との面談などの実地審査が精力的に行われました。

周南ものづくりフェスタで子供たちにロボットを操縦してもらいました

2003.1.18



周南地域のものづくりを地域住民に知ってもらうことを目的に、「周南ものづくりフェスタ2003」が光市総合体育館で開催されました。徳山高専からは、NHKロボコンで優勝したロボットと大賞を受賞したロボットが参加しました。会場では、ロボットを実際に操縦してもらい、機械のおもしろさ、不思議さを体験してもらうことができました。小さな子供たちが目を輝かせながらロボットを操縦している姿が印象的でした。

私たちのアイデアを買いませんか? チャレンジショップで授業作品発表会

2003.1.19



チャレンジショップ「高専夢広場」で土木建築工学科5年の建築設計演習IIの課題「商店街に提案するストリートファニチャー」作品発表会が行われました。自分たちの提案に利用者から評価を受けようと学生が企画、運営して開かれた発表会では、学内では得ることのできない利用者からの反応が得られただけでなく、実際に製作を依頼される作品もあり、好評な結果となりました。

機械電気工学科創造製作 「マシンもおだてりゃボールに登る!」

2003.2.14



機械電気工学科3年「創造製作」の授業でつくられたロボットの競技会が行われました。制御にポケコンやPIC等のコンピュータを使って、自立して動くように作られたロボットが、高さ2mのボールを上って風船を割るという競技です。34台のロボットが白熱した戦いを繰り広げ、決勝ではどちらが先に風船を割ったかで、ビデオ判定となる全国ロボコンさながらの場面もありました。

映画「ロボコン」がクランクイン！ 春休みのキャンパスはロケ一色

2003. 3. 15

東宝映画「ロボコン」がクランクインし、徳山ロケが始まりました。多くの映画関係者がキャンパスを忙しく動き回って、賑やかな春休みです。校内はロケのため大きく様変わり。ロボット部の部室が新たに設置され、情報処理センターは大改造されました。徳山高専からも多くの学生、教官がエキストラとして出演予定です。徳山高専に通うヒロインの活躍が楽しみです。



祝・ご卒業 「第25回卒業式並びに第7回専攻科修了式」

2003. 3. 17



本校第二体育館にて第25回卒業式並びに第7回専攻科修了式が行われました。大勢の来賓や保護者、在校生らが見守る中、本科卒業生119名、専攻科修了生25名に卒業・修了証書が授与されました。これまで徳山高専が送り出した卒業生は累計2,855名（内留学生40名含む）、専攻科修了生は136名（内留学生2名含む）となりました。

徳山高専「総合企画室」がスタートします！

2003. 4. 1



徳山高専に「総合企画室」が新設され、報道機関への紹介が行われました。総合企画室は、本校の運営・経営方針について長期的視点から総合的に企画・立案することにより、本校の教育・研究活動及び経営基盤の強化を図ることを目的としています。2004年度には、独立行政法人化が予定されており、学校を取り巻く環境も大きく変わってきます。これは、学校という組織が時代の変化にあわせて成長していくための取り組みの一つです。

入学おめでとう！ 第30回入学式・第9回専攻科入学式

2003. 4. 7



桜が満開のこの日、徳山高専に165名の入学生を迎えました。本校第2体育館で行われた入学式では、機械電気工学科41名、情報電子工学科41名、土木建築工学科45名の本科入学生計127名、留学生2名、編入生として機械電気工学科1名、情報電子工学科3名、土木建築工学科1名の計5名、専攻科入学生として機械制御工学専攻9名、情報電子工学専攻8名、環境建設専攻14名計31名の入学が許可されました。

笑った!楽しかった!!野外炊飯は美味しかった? **新入生合宿研修**

2003.4.10-11



山口徳地少年自然の家において、高専生活のオリエンテーション及び学生相互、教職員との交流を目的に新入生合宿研修が行われました。5年生の指導学生や校長、教職員と共に晴天下でのオリエンティング、クラス対抗長縄飛び大会、野外炊飯のカレー作りなどを賑やかに行いました。最終日には班毎に「ボクの夢・ワタシの夢」が発表され、1年生が高専生活の第一歩を踏み出しました。

広がる高専専攻科の輪! **中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会**

2003.4.24-25



高専の専攻科学生による実行委員会で運営される研究交流会が津山高専において行われました。7高専の専攻科2年生が集まり、123名が各自が行っている研究を発表しました。初日夜の懇親会では、毎年恒例の各高専ごとの「出し物」が行われ、この日のために作成した愉快なビデオを公開する高専もあり、会場は笑いに包まれました。研究発表、懇親会の両方でお互いの交流を深め、帰路につきました。

Let's learn English! 719人のイントラネット **英語学習システム稼働中**

2003.5.7



TOEIC テストスコアアップコースの説明を受ける専攻科1年生

専攻科及び本科の学生全員と希望する教職員719人の登録が完了し、誰でも情報処理センターのコンピュータからログインして英語の自習学習（TOEICコースと技術英語の2コース）ができるようになりました。これは、本校の教育目標を達成するために必要不可欠な英語によるコミュニケーション能力を育成するために導入されたもので、低学年からの利用による英語能力の向上が期待されます。

「山口県の伝統文化に挑戦」情報電子工学科3年が萩市で合宿研修

山口県萩青年の家において、情報電子工学科の3年生が合宿研修を行いました。これは、高専生活5年間のちょうど中間点である3年生において自らの今後の目標を再確認する、また、級友との交流を通して楽しいクラスづくりの意識を高めることを目的に毎年実施されています。研修で行われた萩歴史探訪や萩焼体験では、4月に入学したばかりの留学生2名も果敢に挑戦し、クラスと山口県の伝統文化に親しむよいきっかけとなりました。

2003.5.15-16



高専生考案の多機能ベンチが商店街に登場 「ネットdeひとやすみ君」



本校環境建設工学専攻1年の三分一淳さんが設計した新しいベンチが周南市銀南街に設置されました。これは、今年1月にチャレンジショップ「高専夢広場」で行われた授業作品発表会のアイデアが、TMO徳山に採用され、実現したものです。商店街の情報端末パソコンを囲むように休憩スペースを作る提案を、商店街関係者の意見を聞いて再設計し、(株)みうらで製作してもらいました。新しさを生み出す若者のパワーは、地域からも期待されているようです。

映画「ロボコン」が完成！ 徳山高専で完成報告記者会見

3月より本校で撮影が行われていた映画が完成し、記者会見が行われました。記者団からの質問に「はらはら、ドキドキできるおもしろい映画に仕上がった。」と古厩智之監督。映画には本校学生が第一ロボット部や吹奏楽部の部員としてエキストラ出演し、何度も行われたりハールで俳優さながらの迷演技？教官も大会の審査員役や他高専の教官役で地味に出演しています。映画は、9月に全国東宝洋画系で公開されます。秋の封切りが待ちどおしいですね。



創造製作発 第17回独創性を拓く先端技術大賞受賞・特許出願

優れた研究成果をあげた自然科学系学生や若手研究者などを表彰する「第17回独創性を拓く先端技術大賞」(日本工業新聞社主催)に機械電気工学科3年生の論文が選ばれ、学生部門の日本工業新聞創刊70周年特別賞を受賞しました。その他、数件の学生による特許も出願されています。

高校野球山口大会ベスト8入り！ スポーツにかける高専生の暑い夏Vol.1



第85回全国高校野球選手権記念山口大会において、徳山高専野球部が第1シード校を破ってベスト8入りを果たしました。(写真はベスト8進出の瞬間)準々決勝では惜しくも山口高校に破れましたが、17年ぶりのベスト8進出に学内は盛り上がりました。のびのびとした野球と評された高専勢のますますの活躍が期待されます。これから全国高専体育大会も行われ、スポーツにかける高専生の暑い夏は、まだまだ続きます。

全国高専大会でバレー部準優勝！ スポーツにかける高専生の暑い夏Vol.2

2003.8.10



九州・沖縄地区を舞台に開催された第38回全国高専体育大会でバレーボール部が準優勝をしました。接戦の末惜しくも破れましたが、悔し涙をガソリンにしたエンジンが来年に向けてもう動き始めています。個人競技では、剣道女子の部で3位入賞、テニス女子シングルスで3位に入賞しました。他にも全国の壁に果敢に挑んだ多くの選手たちがいます。9月にはスポーツの経験を通して成長した姿がみられそうです。

がんばれ！徳山高専第2ロボット部 本校体育館で映画完成報告会

映画「ロボコン」の封切りを目前に控えた9月2日、古厩監督と主演の長澤まさみさんが来校し、学生を前に映画の撮影協力のお礼と完成報告がありました。報告会は徳山高専第2ロボット部が全国大会に出場するための壮行激励会という設定で始まり、長澤さんは徳山高専の制服を着て登場。「全国大会がんばります！」と機械電気工学科2年葉沢里美として挨拶し、会場を湧かせました。その後の監督を交えたトークショーでは、撮影時のエピソードなどが披露されました。

2003.9.2



学生会の新たな挑戦！ 一致団結のクラスマッチ&体育祭

映画「ロボコン」完成報告会翌日、徳山高専は朝から学生たちのにぎやかな声につつまれていました。学生会の新たな試みとして例年通りの「クラスマッチ」に加え「体育祭競技」が行われたのです。これは従来のクラスマッチではできなかった学年を越えた親睦により高専の一体感を味わうことを目的として企画されたものです。目玉は、約20年ぶりに復活した「騎馬戦」。学生会はこの勢いを高専祭につなげようがんばっています。

2003.9.3



3ヶ月の企業実習成果は如何に 専攻科インターンシップ報告会

2003.10.1



スーツ姿の専攻科1年生、教職員、企業の方々が周南市中心市街地のピピ510に集まり、インターンシップ（企業実習）の報告会が行われました。これは専攻科1年のカリキュラムとして5月より3ヶ月間実施されたもので、学生から学校では得られない経験の数々が報告されました。会場ではポスターセッション、報告につづき、「技術者教育におけるインターンシップのあり方」をテーマにしたパネルディスカッションが行われました。

今年のテーマはWild Wild Party！ 第29回高専祭

2003.11.8



秋晴れの午前10時、ステージ企画のスタートでにぎやかな高専祭が始まりました。年に一度の学生による企画・運営のお祭りです。バザー、模擬店やステージでのど自慢大会、クイズ、よさこい、未成年の主張、トークショーなど、そして、夕方から行われる当夜祭では「ライブ&ファッションショー」、他にも研究室開放スタンプラリー、ロボコン障害物

競争と盛りだくさんの企画です。2日間に渡って若者の元気な活動が繰り返されました。

おもしろかったね！ 親子で参加する「土木の日」コンテスト

日曜日の周南市徳山動物園で間伐材を使って動物が遊ぶための構造物をつくるコンテストが開催されました。これは、今年で4年目を迎える徳山高専土木建築工学科と土木学会中国支部の主催による地域交流行事です。今年の課題は「シロガオオマキザルの遊び場～わくわくモンキーランド」。参加者たちは実際にサルが遊んでくれるにはどうしたらいいかと知恵を絞っていました。写真は優勝した町田さん家族の笑顔。

2003.11.15



2003.11.17-18

JABEE本審査受審

1月の試行審査の結果を踏まえ、本審査を受審しました。

思ひ出ほろほろin長野山土木建築工学科「長野山耐久登山」

寒波到来の夜8時、防寒着を着込んだ学生たちが徳山高専を出発しました。目的地は鹿野長野山、到着予定は朝。これは歩行距離41km、高低差にして約1000mを夜を徹して歩く土木建築工学科5年の名物行事「長野山耐久登山」です。厳しい条件下で卒業を控えた仲間や教員と共に行う自分へのチャレンジは、学生時代の貴重な経験となったようです。今年は、須々万から飛び入り参加した子イノシシが山頂まで学生と一緒に歩くというほほえましいエピソードもありました。

2003.11.21



商店街に乗り出せ！「徳山高専夢広場」オープン

2003.11.29



徳山高専の教育、研究、文化活動を地域に向けて発信するお店がオープンしました。これは昨年のチャレンジショップの経験を生かして常設店として設置するもので、TMO徳山の交流施設「ふれあいパーク街あい」内にあります。ここでは、徳山高専の紹介や学生の学習成果の発表、市民を対象としたミニ講座などが行われる予定です。イベントや展示だけでなく休憩スペースやインターネットも用意されています。どんなお店か、まずは立ち寄ってみませんか？

元旦の初飛行「巨大竹とんぼ成功！」

2004.1.1



初日の出を背景に徳山高専陸上競技場で直径5mの巨大竹とんぼが空を舞いました。これは、お正月特別番組「新春ズームインスーパー2004」の日本一に挑戦という企画に、土木建築工学科木村武馬教授が挑戦したものです。過去にも高専祭などで2回挑戦していますが、これまでは空に浮き上がることなく失敗していました。しかし、失敗をバネに試行錯誤を繰り返し3度目にして成功を果たしました。木村教授によると「次の目標は倍の10m！」

徳山高専での留学生生活とその成果は!?「徳山高専留学生の夕べ」

2004.1.16



卒業を間近に控えた留学生の門出を祝福する「徳山高専留学生の夕べ」が開かれました。このパーティーは、留学生を支えてきたホストファミリーやチューターの学生、教職員が親睦を深める会として毎年開かれ、今年で11目を迎えます。この3月に本校を巣立つマニーシャさんとディネーシュ君は、3年間の徳山高専の学生生活を振り返り、友人とのエピソードや日本での苦労話などを徳山高専で鍛えられた流ちょうな防長弁で紹介してくれました。

「白熱のロボット合戦！」機械電気工学科ロボット製作発表会

2004.1.26



機械電気工学科3年のコンピュータ制御の授業で発表会が行われました。この発表会は、各人が授業で製作したロボットを持ち寄り試合をする形式で行われます。今年の競技は、ロボットがボールの上を走ってボールをカゴに入れるというもの。円筒形のボールの上を自動制御で自在に動くロボットをつくりました。今年もアイデアを凝らして作られたユニークなロボットが白熱した試合を繰り広げました。

「英語しか使っちゃいけません?!」夢広場のいんぐりっしゅ☆る~む

2004.2.6



本校のサテライト「高専夢広場」で、英語でおしゃべりを楽しむ企画が始まりました。これは英語科の国重徹先生が主宰するフリートークやゲームなどを楽しむ会です。ルールは英語で話すこと！思わず日本語を使った人はPiggy Bank（ブタの貯金箱）にお菓子代を自己判断で募金します。学生だけでなく市民の参加もあり、Big Toru（国重）先生とSmall Toru（校長）先生の楽しいリードで和やかな雰囲気です。

機械電気工学科 就職・進学状況

早くから進路に対する意識を持って
学生生活を有意義に!

5年担任 機械電気工学科

助教授 桜本 逸男

平成15年度の機械電気工学科の卒業予定者数は、33名（女子3名含む）です。その内訳は、就職23名、大学編入2名、専攻科6名、その他2名です。今年は例年より進学希望者が少なかったようです。

今年度、本学科に対する求人数は310社でした。しかし、この中には大阪府経営合理化協会からの自由応募の求人票が約60通含まれており、それを差し引くと約250社となります。それでも、求人倍率は10倍以上ありますので、他の教育機関の求人倍率が低迷している中、高専はかなり恵まれた環境にあると思います。

今年度の就職試験は4～5月に行われましたが、そのうち、5月のGW明けの週に半数以上が1社目を受験しました。そして、5月中にはほぼ全員に合格通知が来ました。いくら求人数が多いとはいえ、この短い期間に、推薦では一度に1社しか受験できませんので、企業の選択は重要です。また、地域別に内定先内訳をみると、関東11名、関西2名、広島4名、県内4名、四国と九州が各1名でした。

今年度の5年生は、就職試験に関しては非常に成績が良く、23名のうち18名が1社目で合格、そのうち1名は自由と推薦で一人で2社合格しました。また、大学生や大学院生に混じて大企業の設計開発部門に自由応募で合格した学生もいます。それらを含めた全体での1社目合格の割合は8割を超えていました。その原因を挙げてみると、普段から誰に対しても比較のものおじせずに話ができて、自分をアピールできるタイプの学生が多かったこと、就職試験という目標に対してポイントを絞って準備をしたことがあると考えられます。

就職試験では、SPIなどの適性試験と面接、さらに小論文を課す企業もありますが、その中でも面接は最も重要な選考材料となります。今年度の就職試験の報告書をもても、(1) 志望動機、(2) 入社してどんなことをしたいのか、(3) 高専ではどんなことをしてきたかということがよく聞かれています。

面接に対する準備として、まずは受験する企業をよく調査することがあげられます。最近では各企業ともHPが非常に充実しており、求人用のパンフレットよりも最新の情報が入手できます。面接の前に企業について十分に調査し、自分のやりたいことをはっきりさせておくが必要です。そのためにも、早くからある程度具体的に希望先を絞っておくと対策が立てやすいと思います。

さらに、高専在学中に、面接でアピールできる材料を揃えておく必要があります。例えば、クラブ活動や学生会の活動、ロボコンなどの競技会などは面接でのアピール材料となりやすいでしょう。面接のために、それらの活動をするわけではありませんが、何もせず、だらだらと学生生活を過ごし、アピールの材料がないと非常に苦しくなります。もし、学校関係でそのような材料が無かったら、それ以外で自分のアピール材料を探すこととなります。

一方、進学については、大学編入、専攻科いずれにおいても進学後の進路を見据えた選択が必要です。学部卒あるいは専攻科卒で就職する場合は、大激戦になるということは覚悟しておかなければなりません。また、大学院卒で就職する場合は、それなりの能力を必要とされるでしょう。

高専で就職するか進学するかいずれにしても最終的には就職しなければなりません。企業が求めているのは、問題解決能力があり、創造性豊かで、かつ協調性がある人材です。成績が良いに越したことはありませんが、それ以上に求められているのがそれらの能力です。学生時代にいろいろな経験を積んでおくと、社会においても何らかの形で必ず役に立つと思います。

就職：日産自動車、独立行政法人国立印刷局、JAL航空機整備成田、リコー、トステム、矢崎総業、日立ビルシステム、セコム、キヤノン販売、日本空港テクノ、NSデザイン、大阪ガス、太陽精機、三菱重工、明治乳業（2名）、中電プラント、帝人製機プレジジョン、トクヤマ、日本ゼオン、西川化成、三浦工業、ティエスティ

進学：東京工業大学、立命館大学、徳山高専専攻科（6名）

情報電子工学科 就職・進学状況

自己アピールできるものがありますか？

5年担任 情報電子工学科
助教授 守川 和夫

平成15年度の情報電子工学科の卒業予定者は34名です。進路の決まっている学生は33名で、その内訳は、就職22名、大学進学8名（内、留学生1名）、専攻科3名となっています。

最近（専攻科ができてから）では、本学科の就職と進学の比率は、年によって変動はあるもの的大まかにはこの程度で推移しています。

就職先（主要な勤務予定地）を地域別に見ると、関東7名、関西3名、中国10名（内、山口県7名）、九州2名となっており、意外と地元が多くなっています。しかし、県内の就職先は定常的に採用（求人）があるかどうかは疑問です。

私が前回就職担当したときはバブル絶頂期（崩壊直前）で、求人社数数は600社を超え、就職先も大手電気メーカーをはじめ、その関連会社がほとんどであるという夢のような時代でした。

バブルがはじけて十余年、ニュースなどで景気はやや上向いてきたと報じられていますが、依然として厳しい状況に変わりはありません。求人社数こそ昨年とほとんど同じ250社ですが、各社の採用予定人数は2、3割程度減っています。また、先行きの不透明感からか実際の採用人数は押さえ気味の様です。このような状況で、就職希望の22名が内定するまでに就職試験を受けた延べ人数は39名で、約4割が不合格という現状でした。

今年の進学の特徴としては、大阪大学、東京工業大学、電気通信大学という全国区の大学へ3名が進学します。一方、例年3～4名は進学している豊橋技術科学大学への進学が少ないのも挙げら

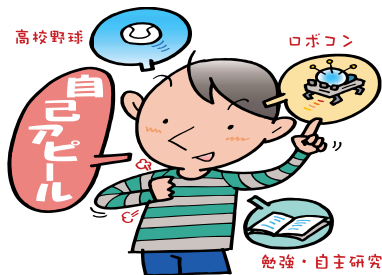
れます。また、併願受験で合格したため筑波大学、豊橋技術科学大学、広島大学、和歌山大学は入学を辞退することになりました。

最近の傾向として採用活動の時期はだんだん早くなっているため、5年生になってから進路先を考え始めたのでは間に合いません。4年生の後期に進学か就職かの調査を行い、11月の保護者会で進路の確認をしました。2月中旬には、進学では大学、学部、学科を、就職では会社、職種、勤務地を、第3希望まで調査しました。

就職活動に備え、求人票をもとにインターネットを活用して会社の概要などを調べながら考えを進めていくのですが、それだけで就職先を決めるのは不安です。3月に、学生が希望している会社を4年の担任（就職担当）と学科主任で訪問し、採用担当から聞いた生の状況を学生にフィードバックするようにしています。

5年生になるといよいよ就職戦線のスタートで、ピークは5月の連休前後ということになります。就職指導で悩むのは、求人社数も少なく、あっても求人の時期も遅い地元就職への対応です。

就職、進学に拘わらず、勉強だけでなく、クラブ活動、資格取得など、高専生活で力を注いだこと、自主的・積極的に前向きな姿勢で取り組んでいるかどうかが問われます。自己アピールできる何かを持っていますか？



就職: アルファシステムズ、出光興産、エネルギー・コミュニケーションズ、きんでん、国際ソフトウェア、コンピュータロニクス、サンキ、周南農業協同組合、ジャパンシステム、新設計コンサルタント、セコム、宝計機製作所、中国電力、DTS、TDCソフトウェアエンジニアリング、東ソー、日信電子サービス、ハタシ、パナソニックCCソフト、富士通九州システムエンジニアリング、富士通山口情報、ヤナイソフトウェア

進学: 大阪大学、岡山大学、九州工業大学、静岡大学、東京工業大学、電気通信大学、豊橋技術科学大学、広島市立大学、徳山高専専攻科（3名）

土木建築工学科 就職・進学状況

今年の進路状況

5年担任 土木建築工学科

教授 工藤 洋三

2年連続して5年の担任というのもめずらしいのではないかと思います。通常4年から持ち上がって5年生の担任となるべきところ、今年も単年度の5年生担当となりました。土木建築工学科5年生の進路もほぼ確定しましたので、簡単に今年の状況を報告します。

今年の5年生はちょうど40名、このうちの22名が進学することになりました。内訳は国立大学が8名、専攻科が13名です。昨年と同様に書きましましたが、クラスの半数以上が進学という状況が続いています。

これに対して公務員として就職していく学生の数は減少しています。過去十数年、卒業して公務員になる学生は毎年10名前後でしたが、昨年度は6名、今年度は5名と減少しています。国家公務員Ⅱ種試験は本来高専・短大卒ですが、公務員希望の大学生が大学で受験し、合格者のかなりの部分を占めています。また、卒業後に公務員学校などを通して受験する非現役組が合格者の半分以上を占めているのも最近の特徴でしょう。このような事情もあって国家公務員Ⅱ種試験合格者は0名でした。

地方公務員については、基礎学力を問う1次試験に加えて、面接重視という傾向がさらに強まっています。もちろん面接の練習によって補える部分もありますが、「学生時代に何をしていたのか」ということが問われますのでやはり短期間の練習だけでは限界があります。面接会場で物おしせず自分の意見をしっかりとと言えるようにするためには、日頃の学習や生活態度が大事です。

民間企業に就職が決まった学生は11名です。民間企業を希望した学生は全員就職が決まりました。建設業をめぐる状況が依然として厳しい中、就職先を決めた学生の努力は高く評価されてよいと思います。総合的にみると民間企業はやはり「やる気」のある学生を求めているようです。学生とのやりとりも最近は携帯電話を使うことが多くなっています。面接会場での応対や印象だけでなく、最初に電話したときの応対の様子や、会社の受付での印象などを評価する会社もあります。

ある企業では学生が合格したあと、人事部長から担任に電話があり、会社の人事部に直接電話をして受験の意志を伝えたことを高く評価した旨の連絡がありました。積極的な就職活動が合格を確実にした例といえるでしょう。

最近の民間企業の求人では、大学生を対象に自由応募に切り換える会社が増えています。個々の学生が学校を介さずにインターネット上から応募し、試験を受けるスタイルで、学校推薦の拘束がないため、合格しても断ることができます。企業にとっては、広く人材を求めることができるという反面、合格が採用に直結しないというリスクもあります。今年になって、求人のお礼を兼ねて関西・関東の会社を訪問し来年度以降の求人の状況などを尋ねてみました。高専卒業生を採用する枠をもっている企業では従来通りの学校推薦がほとんどでした。

昨年度開設したホームページ上での求人情報の掲載は今年度も継続して行いました。昨年度に比べると、この求人情報を利用する学生の数が増えました。4年生以下の学生にもぜひ利用していただきたいと思います。

就職（民間）：（株）オンテックス、日本インシュレーション（株）、ダイダン（株）、JR九州（株）、中国電力（株）、日本都市ホテル開発（株）、水巧技術コンサルタント（株）、産機設計（有）、ジョー・コーポレーション（株）、新興プランテック（株）、山崎建設（株）

就職（公務員等）：広島県、山口県（2名）、三島市、東京都特別区、（社）中国建設弘済会

進学：琉球大学（1名）、山口大学（3名）、九州工業大学（2名）、長岡技術科学大学（1名）、神戸大学（1名）、徳山高専専攻科（13名）

就職試験体験記



機械電気工学科
岩本 敏昌

私の就職体験記

私は車に関係した職種につきたかったので、学校推薦でマツダを受けることにした。しかし、試験が5月中旬と遅かったのでこれはチャンスと思い自由応募でそれまでに内定が決まるNISSANを受けることにした。学校推薦と自由応募が両方とも受かった場合、学校推薦を優先しなければならないが私の場合は自由応募の結果が分かってから学校推薦を受けるかどうかを決めることが出来た。また、NISSANの試験の準備をするにあたっては、門脇先生に指導していただいた。そして、4月の後半にNISSANの設計開発に内定することが出来た。NISSANでは、設計開発をやるということが分かっていたので学校推薦は受けなかった。自由応募で受けるというのは、大学生や院生の人達と混ざって受けなければいけない。今回の試験を通して感じたのは、大学生や院生と比べて高専卒が劣っているわけではなく、逆に高専でない経験できないことも多いので、しっかりと自分をアピールすることが出来れば内定を取れる、ということだ。自由応募を受けようと思う人は、3月ぐらいから試験が始まっていくので、4年の早いうちから会社のホームページやインターネットの就職活動用の掲示板情報などから、情報を収集していくことを薦める。
(日産自動車株式会社)



情報電子工学科
古賀 義紀

私の就職体験

私の就職活動でつらかったのは、クラス内で「誰がどこを受けるのか」の調整でした。私は、地元に近い企業を希望しました。しかし、県内や近県からの求人は少なく、地元希望のクラスメイトと受けたい会社がダブってしまい、話し合いで「誰がどこを受けるのか」を決めたのですが、けっこう時間がかかったし、お互いに気を使って話をしたのでとても疲れました。結局、それぞれが最初に受ける会社はバラバラに決まり、後はとにかくSPI、小論文、時事問題に面接と必死に就職試験対策をしました。準備のかいあって、1社目で内定を勝ち取ることができました。
就職試験には、とにかくできるだけ準備をして受けて下さい。準備さえしっかりしておけば、試験会場で焦ることもないし、自分の力を出し切ることができ、結果として内定がもらえるだろうと思います。自分のやりたい仕事につけるように、1日1日を大切に頑張ってください。
(中国電力株式会社)



土木建築工学科
上田 博之

JR九州を受けるときに・・・

私の場合、自分の中でJRの中でもこの会社しかないと思っていました。ところが、JR九州は、高専の一般エントリーや九州地区以外の高専の推薦を行っていなかったで、まず、諦めず自分で人事課と連絡を取って推薦枠をもらったのが始まりでした。自分で直接アプローチしたことで、自分の考えなども事前に伝えることが出来たため、入試の時も個人的に人事の方といろいろな話をしたりして、本当にアピールするチャンスが多かったように思います。
面接の中で気をつけたことは、質問に対して自分の結論を一番初めに言うことです。面接は、約15分、長くても30分くらいで、その中でただしゃべったのでは時間ももったいないので、うまく色々なことをアピールするためにも簡潔に話したほうがいいです。
就職活動は、いかに“こいつと一緒に仕事がしたい!!”と思わせるか、だと思います。後輩の皆さんも、がんばってそういう材料を作っていくして下さい。
(JR九州)

進学試験体験記



機械電気工学科
藤田 高史

受験をふり返って思うこと

「私たちは、なにゆえ勉強しなければならないのか。」したくないのなら、やらなければ良いのです。勉強をしなくても生きていく方法はいくらでもあるでしょう。しかし、なぜ勉強しなければならないのか、その答えが見えないうちはとりあえず勉強しておくにこしたことはありません。

大学の編入学試験では、筆記試験と面接試験が行われます。旧帝大には推薦制度など皆無です。自分の実力だけが唯一の頼りとなります。行きたければ、とにかく死ぬ気で勉強してください。ただし、この徳山高専の授業をおろそかにするようなことがあってはなりません。そこまでしなければ合格できないような大学へは、進学する必要はないと考えます。

面接試験に際し、私は事前に練習などは全くして行きませんでした。本番一発勝負で、とにかく自分の思い、考え方を相手（面接官）にしっかりと伝えることに集中しました。その結果、私という人間が相手に伝わると考えたからです。相手の目を見て真剣に話をし、面接が終わったあとは、自分の思いだけは確実に告げることができたと思います、たいへん満足でした。

もしこれで落ちていたのならしょうがない、これ以上のことは今の自分にはできない、そう思えるように頑張りましょう。後悔を残すということだけは絶対にしたくないものです。
(東京工業大学)



情報電子工学科
有熊 威

大学編入へ向けて

「高専で何をしてきたか。入学後はどのように勉強していきたいのか。」これは編入学試験でされた質問ですが、これに対して相手を説得できるような生活をするのが重要だと思います。

1年～3年の間は主に資格試験などに挑戦し、結果を残すといいと思います。私の場合は、情報処理技術者試験やTOEFLなどの資格とあわせて、語学研修やプロコンなどの活動にも積極的に参加しました。興味がある事はどんどん行動に移すといいと思います。

3年～5年では受験関連の情報を収集し、傾向の分析と傾向に沿った勉強をするといいと思います。大学の編入学試験は5年の夏にありますので、4年の間に基礎を固め、受験に備える必要があります。

大学の編入学試験の教科は数学、物理、英語、専門などがありますが、そのレベルは高専の授業以上です。日ごろから、表面的な内容を覚えるのではなく、その後ろにある考え方を理解し、応用できるような勉強を心がけるといいと思います。
(東京工業大学)



土木建築工学科
高畑 綾子

大学編入

私が進学しようと決めたのは4年の春でした。しかし、時間というのはあっという間に過ぎてしまうもので、気がつけば5年の4月。進路決定から1年が過ぎていました。その間に私がしたことといえば、希望の大学を決めたことぐらいです。編入試験まで2ヶ月というところで、本気で「やばい…」と思いはじめました。

偶然にも同じ大学を受験することになった大石さんも私と同じような状況で、二人で「やばいやばい」と言いながらも、受験までの2ヶ月間、いろいろな先生のお世話になりながら勉強し、なんとか二人そろって合格することができました。

編入をする上で一番大切なことは、きちんと大学を調べることだと思います。その大学に編入された先輩と連絡をとって、いろいろな話を聞いてみるのも大事です。希望の大学を決めたら、あとは試験に向けてきちんと学習計画をたててこなしていくべきです。毎日少しずつでも勉強しておけば焦ることはないはずですよ。

これから進学を目指す皆さんも頑張ってください。
(九州工業大学)

卒業生だより



機械電気工学科 6期卒
吉田機械工業株式会社

大村 康

機械電気工学科6期生の大村（おおむら）です。このようなたよりを投稿するのは初めてです。近況報告ということで、現在携わっている仕事について紹介を兼ねて簡単に報告します。

現在、名古屋にある従業員50名規模の会社でNT（ナノテク）事業部部長（兼務役員）のポストで仕事をしています。当社（本来、弊社と言いますがここは敢えて当社と記載します）は創業してから100年超の歴史（？）ある会社です。当社は、商社部門・サービスエンジニアリング（SE）部門・NT事業部門の3つの柱から構成されている会社です。この会社に（株）東芝から転職したのは、2000年10月、今から3年ちょっと前。

私の担当しているNT事業部は、1999年に当社社長が先見の明で取り込んだ新規事業で、現在最も旬な技術である「ナノテク」に関係する事業（そのまんま）を遂行しています。本来ナノテクと言うのは、数ナノ以下の粒子径を扱う技術であり、同一物質でも粒子サイズがナノレベルになると、新しい効果（原子核が持っている本来の性能）などが発揮されるというものです。当社ではそのナノレベル（と言っても現状は数十ナノレベルまで）へ加工する装置技術を扱っています。

さて皆さん、紛体って知ってますか？ そうです粉状の粒子です。空気中の紛体（乾燥状態）は紛体として存在するために、ミクロンレベルでの粒になっています。ナノレベル（サブミクロン）で1個の粒子毎に分離することは空气中乾燥状態

では出来ません。例えば数十ナノの金属紛体であっても、空气中乾燥状態ではミクロンレベルに集まって粉になります。これを凝集と言います。粉状の物質を粉のまま産業界で使用することは、ほとんどなく、必ず液状にして扱います。身近な物として最近のインクジェットプリンタ用インクを思い出して見てください。少し前までは染料インクが使用されていました。染料は分子レベルで可溶化した分子と言えます。現在主流なのは染料ではなく顔料インクです。顔料は粒子であり水には溶けません。顔料は粒子であるが故に耐光性、発色性、非滲み性が良く、細かいドットでも色鮮やかな画質で印刷できます。えっ！と思うのは顔料インクは液中に紛体が均一「分散」されているのです。分散状態の顔料粒子サイズは、数十ナノ～百ナノ。このサイズまで凝集を解（ほぐ）すと、あたかも液に溶けているように見えます。このインクは長期間放置しても顔料が液中に沈むことはありません。液中に紛体が浮遊しているのです。この紛体は光学顕微鏡では確認することも出来ません。光が反射するのは200ナノ以上の大きさに限るからです。この凝集を液中で解す技術を装置（名称：ナノマイザー）として、当社は開発・設計・販売をしています。

この技術を使うとこんなこともできます。例えばサラダ油と水。この2つの物質は混ざり合いませんし、溶け合うこともありません。この2つの物質に極微量（1%以下）の添加剤（界面活性剤と言う）を混ぜて装置で処理すると、真っ白な液になり数年間は分離しません。添加剤の量を増やせば攪拌棒だけでも白い液にすることはできますが、安定的に非分離状態にすることはできないし、この添加剤は水や油に比して高価なので、産業界では添加剤をできるだけ少なくして混ざらないものを混ざったような状態にしたいのです。

2液の均質化を「乳化」と言います。この技術を使っている最も有名な商品は牛乳です。ほとんどが水であり、水の中に乳脂肪分が小さな粒になって均質分散された状態になっています。牛乳を数ヶ月放置しておくと油分と水が分離することを経験的に知っていると思います。これは油分粒

卒業生だより

子径がまだまだ大きく精々数ミクロンサイズだからです。

では、技術の一般的説明は終わりましたので、次はどんな方法・手段で微粒化しているのかを簡単に説明します。当社の装置技術は、別名「湿式メディアレスミル」とも言われます。液体に紛体を投入し、適当にかき混ぜます。一時的に紛体は液内で拡散された「懸濁」状態になります。このまま放置すれば紛体は容器の底に沈んでしまいます。紛体が沈む前の懸濁液を装置に投入します。装置はその懸濁液を超高圧（最高200MPa）でノズルへ押し込みます。そうするとノズル内では流速200~400m/secの速度で液が流れます。この超高速流体内で発生する乱流エネルギーで懸濁液中の紛体を微粒化します。乱流エネルギーとは流体せん断力、高周波（フローノイズ）、キャビテーション（衝撃波）などが挙げられていますが、理論説明はされていません。いろんな大学へ説明依頼を持ちかけますが、説明するのは困難のようです。多層流体&固液混合流体力学が進歩すれば、いつかは説明されるでしょう。ここで補足説明ですが、高速流体を流体同士または壁衝突させて微粒化させるのではなく、超高速乱流環境下で微粒化が成されるのです。面白いでしょ。

この技術、現在製剤分野でも注目されており、難溶性物質の超微粒化技術として活用され始めています。今までの説明で解るように、微粒化エネルギーを与える（伝える）のは液体であり、液体と被微粒化物質以外の物質は何も存在しないのです。だから異物混入がありません。ここが製剤分野での紛体処理に向いているポイントなのです。また処理された液体（微粒化分散液）は、そのまま活用できるのです。

高専時代の卒研は流体力学でしたが、このような超高圧・超高速乱流流体とは無縁でした。また化学・物理・熱力・製図の授業なんて大嫌い（先生ごめんさい）。それがサブミクロン物質となると微粒化処理検体については、化学・物理が重要となり、装置技術では流体・材料・熱力学が重要となっており、高専時代の教科書を今更ですが紐解いて読んでいる今日です。学生時代にはこん

な技術は無かったから余計に面白さに欠けたとも言えるけど。

学生時代あれほど嫌だった教科も、こんな面白い現象に出会うと興味が出てきて、知らず内に情報収集してしまう自分が頼もしいとも思っています。（株）東芝という大会社からの転職でしたが、転職当初からやりがいのある業務で毎日が充実しています。もちろん前職期間中に得た開発設計技術力や企画力、趣味（余暇）時間が有ったからこそその現職とも感じています。趣味多き自分なので会社でも家でも個人としては充実しており、その分家族には迷惑掛けているかも知れません。理解ある妻（実は外国人で前職時代、海外出張先で知り合った）と結婚できたことも今日の自分を築き上げた大きな原動力になっているかも。

他にもいろいろと報告したいことがあるのですが、今回（次回有るかな？）はこの辺までにしておきます。当社技術（私的事項含む）に興味があったら是非連絡ください。

勤務先

〒456-0004

名古屋市熱田区桜田町3-13

吉田機械興業株式会社

TEL：052-882-2511

FAX：052-882-2302

<http://www.yoshidakikai.co.jp>

取締役 N T 事業部 部長

（兼 事業本部 技術統括部長）





バンコク市内の様子

タイ南部のイスラムの村で右から2番目が私です。



今しかできないことに全力を

機械電気工学科 12期卒

中国電力株式会社

藤井 健二

私は徳山高専機械電気工学科を卒業後、中国電力(株)に入社、2002年よりJETRO(ジェトロ・日本貿易振興機構)へ出向中で、2003年より同機構のバンコクセンターで勤務しています。

JETROバンコクでは、タイ政府の進める「一村一品(One Tambon One Products)運動」の振興や隣国ラオスの織物産業育成支援などを担当しています。

みなさんは、どうして技術者として電力会社に入社した人間が、電力とまったく縁の無い他国の産業育成などを行っているのか不思議だと思いませんか。ここでは現在の選択をするに至った経緯を紹介したいと思います。

[技術者からの転進]

中国電力(株)へ入社してからは、変電所の設計・建設に従事し、困難ではありましたが自分の能力を十分に発揮できる仕事でした。もともと海外志向があったわけではない私ですが、海外事業展開を目指す会社の方針と技術者が技術だけでできればいいという時代ではないという私の考え方が一致し、JETRO出向のチャンス自らものにすることができました。

上司より若手の技術者に対してJETRO出向の打診があったわけですが、私も含めてみな技術者として入社しているわけですし、海外赴任を伴うJETROへの出向は、当社から一人も経験がない

という、未知の世界であり、言葉の問題も含めて、なぜそんなことに挑戦しないといけないのかというのが同僚たちの正直な気持ちだったと思います。私も当然、同僚たちと同じ心境でしたが、ただひとつ心を惹かれたのが、第一号の出向者ということでした。

結局、技術以外のことも身につけたいという思いと好奇心そしてチャレンジャー精神に後押しされる形で現在のバンコク勤務に至っているわけです。

[今しかできないことに]

こんな私からみなさんへのアドバイスですが、学生時代になにかひとつのことに打ち込み、周囲の人に胸を張って、自分はこういう目標にチャレンジしたと言えるようにする必要があります。どんな分野でもいいでしょうが、そのとき(学生時代)しか出来ないことであることが重要なポイントだと思っています。

私の場合はクラブ活動だったわけですが、仲間とともにひとつの目標に向かってチャレンジしたその精神が、卒業後、十年を経て、私の人生を豊かにし、また、決断が求められるときの強力なサポーターとなってくれました。

みなさんも早かれ遅かれ社会へ出れば、いろいろな局面で決断を迫られることになると思います。そのとき周りに流されず、自分の意思で答えを出せるかどうかは、今の生活にかかっていると思います。

[グローバル化する社会のなかで]

最後にちょっと堅いことを書きますが、教員の方はもちろん、学生のみなさんもご存知のとおり、企業活動はもはや国境の無いグローバルなものとなっております。

このような中で求められる技術者というのは、単に語学力を付加するだけではなく、社会の問題などに対して、自分の言葉を持っているということではなからうかと思っています。

時間の許す限り、教員の方々とは社会問題などについて議論する時間を設けることも重要ではないかと思っています。

みなさんが有意義な学生生活を過ごされることを、一年中暑い、タイ・バンコクで祈っております。

卒業生だより



社会人18年生が考えること

情報電子工学科 第9期卒

有限会社インタラクティブリサーチ

福永 勇二

徳山高専を卒業して就職、その会社を退社して、自ら事業を始めて12年くらいになる。卒業から数えれば18年だ。その間、なんだかんだと社会状況の変化もあったが、どうにか今この仕事で食いつないでいる。

この期間を振り返ってみると、学生の頃とは自分の考え方も大きく変わった。以前には考えも及ばなかったようなことが、自分の考え方のベースになっていたりする。今回はその話をしよう。

ここでの話が全ての学生諸君に通用するかどうかは正直よく分からない。だから、あまり鵜呑みにせず、一つの考え方として読んでもらおうといい。一風変わった先輩の独り言。まあ、そんなところだろう。その話のポイントは全部で3つある。

1. それは、本当に真実？

何の疑いもなく信じ込んでいたことが、実は真実ではなかった。そういう経験をすることは多い。

例えば、じゃあ、日本の貿易のことで考えてみよう。いま輸入額が最も多い貿易相手国はどこか知っているだろうか。アメリカ？そんな感じがするが、実は中国が1位だ。

東アジアの国々、つまり中国や韓国と日本の間には、なんとなく距離感を感じる人が多いだろう。その理由に経済的つながりが薄いからと思いつたのだが、実は薄いのは「関心」だったりする。

この例に限った話ではないが、社会的な思い込みと、自分の立場の間には、少し距離をおくよう心がけることが大切だと思う。それはビジネスのチャンスに直接つながる。

2. 「他人が知っている」自分を知ろう

「自分のことは自分が一番よく知っている」と思うかもしれない。でも、他人が自分をどう評価しているかは、実は自分が一番分かっていない。同じように、自分の作品や仕事が、自分の評価とは違う評価を受けることも多い。自分自身は「あんまり出来がよくないなあ」と思っているのに、「うーん、これはすばらしい！」となることもあるってこと。

すばっと点数が出る学校のテストと違って、作品や仕事、そして自分自身に対する評価は、ある意味あやふやで、見る人によって大幅に違うものだ。だから、自分の評価が、イコール、他人の評価にはならない。

だからこそ大切なのは、「他人が知っている自分」、つまり自分に対する評価を知ることだ。自分が持っている武器を知り、それをシッカリ活用できるか、できないか。その違いが、10年先の自分像に大きな差となって現れる。

3. 何をやっても無駄はない。学校の勉強も

「自分はなんでこんなことをしてるんだろう？」毎日授業を受けていると、ふとこんな思いがよぎる時がある。たぶん、大切な自分の時間を無駄に過ごしているような不安感。

でも心配する必要はない。自分が経験したこと、努力したことは、これから先のどこかのタイミングで、必ず役に立つ時がくるからだ。学校の授業もそうだし、社会経験だってそう。長い目で見れば、やって無駄になることは何一つない。

別に焦らなくていい。いま自分が置かれた環境の中で、やらなければならないこと（勉強）と、やりたいこと（趣味）、それぞれ自分なりにがんばってみる。当たり前だが、これが一番いい結果をもたらす気がする。

以上、なんだかお説教じみて恐縮だが、何かのお役に立つことを願いつつ。



リサイクル建築への挑戦

土木建築工学科 19期卒

株式会社 竹中工務店

濱田 幸弘

日本初のニュータウン、大阪・千里。今年、街びらきから四十周年を迎えたこの街は、マンション再生の問題に、いち早く直面していました。日本の高度経済成長の象徴である『万博公園』に近い豊中市の「新千里桜ヶ丘住宅」（12棟、272戸→建替後 7棟、524戸）において六年前、住民の九割以上が賛成し、老朽化を理由に建て替えを決議しました。しかし、反対者が決議は無効だとして提訴し、五年に及んだ訴訟は昨年、最高裁で建替賛成派の主張を認める判決が確定しました。建替に伴う法律自体も変えてしまったこのプロジェクトはさまざまな方面からの注目を集めています。

その一つにリサイクル建築による建替が挙げられます。今までの建替とは既存建物を解体し、新たに建物を建てるという方法で、解体されたものはそのほとんどが役目を終えて産業廃棄物となります。しかし当プロジェクトはその使い捨て建築から一歩先に進み、解体材を再利用し新たな建築を作り上げるリサイクル建築というものです。

その内容は、解体時に大量に発生する躯体部分のコンクリートに特別な処理を施し、再生骨材として利用するという画期的な技術です。強度面や流動性、長い期間を見据えた耐久性等で多くの問題がありましたが、当社の技術力で壁を乗り越え、平成15年10月に個別大臣認定を取得し、初めて大規模に実用化される事になりました。今回再生骨材として利用するのは、解体して発生した5000m³のコンクリートガラです。骨材メーカー・コンクリートプラント・技術研究所が連携し、材料として新築に使用する物と全く遜色無い物として利用できるようになりました。建築＝環境破壊というイメージが強いですが、このプロジェクトが日本を越えて世界の建築の歴史を変えていく第一歩になるような気がします。最近はやりのドキュメンタリーのように、これが私の『プロジェクトX』です。このように自分が誇りを持って取り組む仕事に巡り合える事は本当に幸せです。在学中の皆さんも、技術者として活躍の場を求めるなら、誇りを持って取組める仕事に巡り合えるように、チャンスを生かせる知識やチャンスと呼び込めるアンテナを張れる人間になってください。社会人8年目の私如きが大きな事を言いましてすいません。数少ない経験の中で今思う事を書き記しました。在学中の皆さんの将来像に対する不安を少しでも取り除けたら幸いです。

最後に徳山高専のこれからの更なる発展と徳山高専生(MADE IN Tokuyama College of Technology)の全世界での活躍を心から応援しています。





お別れにあたって

一般科目 教授 小田宮 章夫

いよいよその日がやってきた。定年退官である。ついこの間までは定年なんて他人事で遙か先のことと思っていたが、いよいよである。

本校のホームページにも書き込んだことであるが、教師になることは子供の頃からの夢であった。その夢が叶って41年。よくぞここまで頑張ってきたのだと自分を褒めてやりたい。思えば、学生主事補、寮務主事補、寮務主事をしていた頃が我が人生の盛りであったか。体が不自由になってからのここ10年というものは、教育・研究が思うに任せないもどかしさといったらこのうえなかったが、それでも精一杯の情熱をたぎらせてきたつもりである。いずれにしても、ここまでこれたのは言うまでもなく皆さんのご理解ご協力があつたればこそと、ここに深く感謝申し上げる次第である。

大学を卒業（昭和38年）して弓削商船高等学校（現：弓削商船高専）に保健体育の教師として着任。教師生活の振り出しである。当時、クラス担任をしていた（1年から卒業まで持ち上がっていた：徳山に転勤するまでに都合2回の担任を経験）学生達が、今でも何年に一回かはクラス会を開いて招待してくれる。昨年の8月には尾道で行ったが、お互いに往時を懐かしみ合ったものである。まさに教師冥利つきるとはこのことか。

昭和49年、徳山高専設立と同時に弓削から転勤。本校も間もなく30周年を迎えようとしているが、発足時が懐かしく思い出される。木造の校舎での授業、猫の額ほどグラウンドでのバレーボールの授業、運動会、未開通の周南バイパスを利用してのマラソ

ンの練習。うーん、懐かしい!!現在、2800余人という卒業生のうちの10人が本校の教官として頑張ってくれている。既に学位を取得した者、学位取得に懸命な努力をしている者それぞれだが、特筆すべきは、学位を取得した者の多くが、その後の研究活動はもちろんのこと、クラブ活動などの教育活動にも熱き情熱を注いでくれていることである。非常に口幅ったい言い方になるが、こんな文武両道の教え子を小生は大変誇りに思う。現在、学位取得を目指している者も目的達成後には教育活動にもより一層の努力をしてくれるものと確信をしている。クラブ活動などの教育活動への熱心が学位取得を一層光り輝くものにしてくれるはずであるから。業績評価がどちらかといえば研究中心になりがちな高専制度にあって、中学校を卒業したての子供を預かるにあたっては、特に低学年の間（その内でも入学からの1年間）は、規則の遵守などといった躰などに重きを置いた指導がなされるべきではないかと小生は常々考えている。すなわち、低学年の間は教育・研究のうちの教育に軸足を置いた指導が必要ではないかということである。この点、徐々にではあるが制度的に改善がなされているようには感じる。

教師生活41年、数々の思い出が、酔っぱらって醜態を演じた若い時の苦い思い出と共に頭の中を走馬燈のごとく去来する。

「私はこれで退官しますが、我が徳山高専は永久に不滅です」－どこかで聞いた言葉であるが、これは、今まさに去りゆかんとしている者の切なる願望である。将来、ひょっとして独法化の波に飲み込まれて高専・大学の統廃合が進むかも知れないが、徳山高専だけは永久に不滅であってほしいと心底思う。かりに統廃合がなされるようなことがあっても、我が徳山高専は少なくともその核になり、徳山という名前だけは不滅であってほしいと心底思う。そうあるためには、教職員、学生の日々の努力の積み重ねが不可欠であることは言うまでもないことである。頑張るって欲しいと心底願わずにはおれない。

最後になりましたが、長い間、多大なお世話にもなり、多大なご迷惑もおかけしました。ありがとうございました。お元気で。さようなら。



みなさんと別れを惜しみながら

情報電子工学科 教授 馬渡 賢治

「行く春を近江の人と惜しみける」という芭蕉の句があります。俳諧を芸術的な文芸にまで高めようとした芭蕉の、俳諧に対する考え方や作風を理解してくれた数少ない人が、近江に住む知人だったようです。その知人の家にしばらく逗留し、別れを惜しんで近江の人に贈ったのがこの句と云われています。自分を良く理解してくれた人と別れる哀感と、春の終わりの何ともいえない惜別の情が微妙に重なった句で、私の好きな句の一つです。15年間の徳山高専の生活が終わりに近づいてきたとき、ふとこの句が口について出てきてしまいました。

何も分からないまま赴任し、教壇の高さに躊躇し、授業の開始のときの「起立・礼」の声に驚き、どぎまぎしながら授業をしたのが、昨日のこのように思い出されます。それから15年間、人間の能力とは何だろうか、学ぶことが好きになったり、嫌いになったりするのはどうしてだろうか、難しいことを分かってもらうようにするにはどうすればいいだろうかと考えながら、多くの皆さんと過ごしてきました。

今もって分からぬまま、徳山高専の生活も終わりになりますが、迷いながらの私のそのままの姿を許容し、理解してくれた多くの学生の皆さんがいたからこそ、身にしみるよろこびを味あうことができたのだと思っています。惜別の気持ちをぬぐい去ることはできませんが、皆さんがこれから新しいことや新しい人と出会い、生き生きと生活されていく姿を思い描きながら、第三の人生に入っていこうと思っています。



定年

庶務課 図書係長 門田 海婦子

待ち望みながらその時が近づくかと片づけなければならぬことが山ほど残っているように思え不安になります。徳山高専に勤務して30年、先輩たちがおっしゃっていらしたようにもう30年、ついこの間のこのように、はじめて高城の山を訪れたときが思い出されます。ちょうど1974年1月、徳山大学は開学しておりましたが、道は大学玄関前までで、それからは工事用の崖の裾を廻る赤土の道で、管理棟と寮の建設が始まっていたように記憶しております。現在高速道になっているあたりで山を壊して、ブルドーザーが斜めになりながら動いておりました。

私は、徳山で生まれ育ちましたが、周南団地は昭和30年代後半から新しく造成された団地で、新天地ではあるが旧徳山市内から遠く隔たった場所という感じを抱えておりました。出光興産の火事があったときにはじめて周南団地に足を踏み入れ、「スーパーたから」と二、三の4階建ての建造物がある広々とした原っぱにこれが周南団地かと思ったものでした。その未開の端に開校した徳山高専は、団地の発展・整備とともに着実に地域に根を下ろしつつあると感じられます。

大学は繁華街に近い街中でしたが、卒業して神戸商船大学の図書館に、次に山口大学図書館にそして徳山高専に勤めましたが、最初の二つは4年弱、公務員生活の大半はここ徳山高専で過ごしました。はじめて高城の山へ来たとき、何の脈絡もなく「つひの栖か雪五尺」と一茶の句の一部が浮かびました。そして徳山高専で上野五郎(療)先生に俳句を教えていただき余生の楽しみもできました。図書館の窓から眺めた太華山や笠戸島は四季折々にこころ安らぐものでした。

健康に勤めを終えることができましたこと、たいへんありがとうございました。

新任者紹介 ……よろしくお願ひします



機械電気工学科
助手 長山 暁子

- ・ご出身はどちらですか？
出身は中国の蘇州市です。蘇州は長江三角洲の最も豊かな地区上海の東にあり、2500年以上の歴史を有する文化の都市です。
- ・本校にこられる前はどちらに？
九州工業大学大学院設計生産工学専攻博士後期課程修了後、香港科技大学機械工学科にて博士研究員に従事しました。その後、九州工業大学の非常勤研究員を経て徳山高専に就職しました。
- ・徳山高専の印象は？
すばらしい自然環境に恵まれ、風水のいいところにあるなあと「一目惚れ」しましたが、徳山高専の人々も心のやさしい方ばかりで大変感心しました。「住めば都」、今は徳山高専のことが大好きで、誇りを持って楽しい日々を送っております。
- ・ご趣味はなんですか？
研究、料理、散歩、読書、お茶、占い、説教、夜更かし・・・
(嫌いなこと：ウソ、テストと採点、授業中居眠り・・・)
- ・今後の抱負をお聞かせください。
徳山高専の色に染まりながら、「我」を色褪せないように頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。



事務部長 野中 章彦

- ・ご出身はどちらですか？
「山口市」です。
と言っても、市の中心地域からは12～3 km離れ、山と田んぼに囲まれた「ど田舎」です。(吉幾三さんの唄の文句“ガスもねェ！水道もねェ！車もあんまり走ってねェ！”とまではいきませんが。(電気は来ていますし、車もかなり走ってます。))
- ・本校にこられる前はどちらに？
広島大学(東広島市)に居ました。
- ・徳山高専の印象は？
以前(20年前に)ご厄介になっていたことから、懐かしさの方が勝ってしまいあまり意識しませんでした。
しかし、あらゆる面で発展・充実されたことは前任地、前々任地(豊橋技科大)でも伝え聞いておりました。
- ・ご家族は？
愚妻のみです。(娘が一人おりましたが、平成6年5月に篤志家(?)に貰っていたが、以後は二人きりです。)
- ・ご趣味はなんですか？
海釣り(船、陸不問)、園芸、日曜大工などいろいろありますが、この頃は釣りオンリーです。
愚妻もすっかりハマってしまい、まさに“釣りがカ夫婦”ってところですが、釣果は???。どこか良いポイントがありましたら教えて下さい。
- ・今後の抱負をお聞かせください。
本校の更なる発展・充実のために微力を注ぎたいと思います。
ご支援・ご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。



会計課長 鈴木 茂

- ・ご出身はどちらですか？
滋賀県の南部、「信楽—しがらき」というところ「信楽焼」—あのタヌキの焼き物で有名なところですが、生家は焼き物をしていません。
- ・本校にこられる前はどちらに？
京都大学経理部の契約課におりました。ほとんどが京都大学のなかでの異動でした。他に若狭湾少年自然の家（福井県小浜市）と大阪外国語大学（大阪府箕面市）にも人事交流で赴任しておりました。
- ・徳山高専の印象は？
環境が、抜群ですね！高台にあり（この高台まで登校する学生は鍛えられるな？）景色も良く、何と言っても海が見える環境は、なぜかほっとしますね。また学生も年齢層が幅広く挨拶をしてくれるのには、なぜか驚きと清々しさを感じました。
- ・ご家族は？
妻と子供2人の4人家族です。家族は大阪府北部の枚方（ひらかた）市に住んでいます。この3月には、妻子をよんで家族全員でと計画中です。
- ・ご趣味はなんですか？
昔は、いろいろスポーツ（野球、テニス、ランニングなど）をしましたが現在は、もっぱらテレビ・ビデオ鑑賞などお宅系に専念しています。
- ・今後の抱負をお聞かせください。
微力ながら高専がより発展するために尽力できればと思います。



会計課用度係長 山本 秀喜

- ・ご出身はどちらですか？
地元周南市の出身です。
- ・本校にこられる前はどちらに？
人事交流で山口大学に行って、3年振りに帰ってまいりました。
- ・徳山高専の印象は？
3年振りに帰ってみますと、構内は土足解禁になり、喫煙室も設けられおり環境が大分変わっていました。
- ・ご家族は？
妻と2人の子供と母の5人家族です。
- ・ご趣味はなんですか？
現在は主にテニスをやっています。他にはバイクツーリング等もします。
- ・今後の抱負をお聞かせください。
法人化前に帰ってきましたので、とまどっているところですが、無事に法人化に移行出来るようお役に立てればと思っております。



会計課施設係長 大坪 公二

- ・ご出身はどちらですか？
徳島県麻植郡山川町字川田というところで、四国一？長い川「吉野川」の中流に位置するそ

の名の通り、山と川と田んぼしかない田舎町です。

・本校にこられる前はどちらに？

佐賀医科大学施設課に4年勤務していました。専門は機械関係で、給排水・空調設備等の設計、維持管理等の業務をしていました。

・徳山高専の印象は？

前任地が佐賀平野のど真ん中で真っ平らでしたので、学校へ登る坂道に参りました。

また、自然は大好きなので裏山とか見ると何か秘密がありそうで、今でもドキドキします。

・ご家族は？

妻と娘2人の4人家族ですが、家族は佐賀市に私は単身赴任中です。

・ご趣味はなんですか？

特にこれといった趣味はなく、現在は慣れない主夫業に追われる毎日です。

・今後の抱負をお聞かせください。

法人化と言う大きな壁を目の前にして、皆さんと一緒に乗り越えられるよう、出来る限り努力したいと思っていますので、よろしくお願いします。



庶務課庶務係主任 田中 幹夫

・ご出身はどちらですか？

山口県山口市です。

生まれも育ちも山口で、現在も通勤しています。

・本校にこられる前はどちらに？

山口大学経理部管財係で、主に国有財産、宿舍に関する事務を担当していました。

・徳山高専の印象は？

第一に、自然に恵まれ眺めがすばらしく、とてもきれいな学校だと思いました。

あと、特に地域との繋がりを大切にしていこ

うとする姿勢を学校全体に感じました。

・ご家族は？

妻と小学1年生の長男、1歳の次男の4人家族です。

・ご趣味はなんですか？

旅行に行くこと。読書。

・今後の抱負をお聞かせください。

徳山高専に少しでも貢献できるよう、頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。



学生課学生係 田中 寛之

・ご出身はどちらですか？

下松市です。モール周南のすぐ近くです。

・本校にこられる前はどちらに？

山口大学人文学部・理学部学務第二係（理学部担当）に勤めていました。

主に、理学部の入学試験、大学院関係の仕事をしていました。

・徳山高専の印象は？

自然に囲まれて、勉学をするには最高の場所だと思いました。

・ご趣味はなんですか？

ドライブです。休日には、よく遠くに出かけています。最近も阿蘇に行ったのですが、天気がよくて、最高のドライブができました。お勧めですので機会があれば、ぜひ行ってみてください。

・今後の抱負をお聞かせください。

これから学校環境がめまぐるしく変わって来るとは思いますが、その流れに取り残されないように、日々努力していこうと思っています。対象学生が大学生から高専生に変わり、戸惑いもありますが、徳山高専生のお役に立てるようがんばりますのでよろしくお願いします。

資格取得支援 活用のチャンスはあなたにも

外部資格の取得に挑戦することは、学生が自ら目標を定めて学習するきっかけになると同時に、自らの学力を客観的に評価できるという意味でも有意義です。卒業後には、取得した資格が役立つことも大いに期待されます。

本校では、このような資格取得の意義から、その促進を図るため、**平成15年度から、資格取得者に対する報奨金制度を設けています。**平成16年1月までに報奨金を手にした学生は63人になります。対象となる資格は下記のとおりですので、積極的に資格試験にチャレンジしましょう。

また、**平成16年度からは、特定の資格を取得した学生、ボランティア活動を行った学生及びスポーツ又は文化活動で顕著な成果をあげた学生に対して単位の修得を認める制度を設けます。**更に資格取得や幅広い領域での学習を奨励し、支援体制の推進を図っていきます。

両制度についての詳細は、学生課教務係へお問い合わせ下さい。

資格取得奨励制度

対象となる資格及び報奨金の額

(1) 下記の資格については、その資格の受験料の全額に相当する額

実用英語検定2級以上、工業英語検定2級以上、実用数学技能検定1級、TOEIC470点以上（IPを含む。）（1回に限る。）、日本漢字能力検定1級、日本語文章能力検定2級以上、情報処理技術者（基本情報技術者及び初級システムアドミニストレータを除く。）、電気通信工事担任者（アナログ・デジタル各1種又は総合種）、デジタル技術検定1級、測量士、二級建築士、その他上記と同等以上と認められる資格（ただし、本校の学習・教育目標と関連を有するものに限る。）

(2) 下記の資格については、その資格の受験料の半額に相当する額

実用英語検定準2級、工業英語検定3級、実用数学技能検定準1級、TOEIC400点以上470点未満（IPを含む。）（1回に限る。）、日本漢字能力検定準1級、日本語文章能力検定準2級、基本情報技術者、初級システムアドミニストレータ、電気通信工事担任者試験（アナログ・デジタル各2種）、デジタル技術検定2級、CAD利用技術者検定2級以上、土木施工技術者、福祉住環境コーディネータ2級以上、その他上記と同等と認められる資格（ただし、本校の学習・教育目標と関連を有するものに限る。）

■資格別報奨金受領者（平成16年1月まで）

| 資格の種類 | 受領者数 | 適用 | 資格の種類 | 受領者数 | 適用 |
|-------------------|------|----|-----------------|------|----|
| TOEIC（470点以上） | 7人 | 全額 | CAD利用技術者2級 | 3人 | 半額 |
| TOEIC（400～470点未満） | 7人 | 半額 | 基本情報技術者 | 16人 | 半額 |
| 実用英語検定2級 | 5人 | 全額 | 初級システムアドミニストレータ | 2人 | 半額 |
| 実用英語検定準2級 | 4人 | 半額 | デジタル技術検定（情報） | 2人 | 半額 |
| 工業英語検定3級 | 4人 | 半額 | デジタル技術検定（制御） | 1人 | 半額 |
| 工事担任者（総合種） | 1人 | 全額 | 福祉環境コーディネーター2級 | 1人 | 半額 |
| 工事担任者（デジタル1種） | 6人 | 全額 | 2級建築士 | 3人 | 全額 |
| 工事担任者（デジタル3種） | 1人 | 半額 | 合計 | 63人 | |

いよいよ独立行政法人化!

国立高等専門学校は、平成16年4月1日から独立行政法人化されます。

現在ある55の国立高等専門学校の設置・運営を目的とする独立行政法人として、「独立行政法人国立高等専門学校機構」が、昨年10月に設立されています。

独立行政法人化されるにあたり、さまざまな質問が学校に寄せられています。その中で、よくある質問についてお答えします。

独立行政法人化に関するQ&A

Q1. 「独立行政法人」とはどのようなものですか。

A. 独立行政法人は、特別な法律（高専の場合：「独立行政法人国立高等専門学校機構法」）に基づいてつくられる法人で、その業務を確実に実施するため国が財政的に責任を持つ公的な法人です。

独立採算制を基本とする「民営化」とは、全く異なるものです。

Q2. 「独立行政法人」と「学校法人」はどのように違うのですか。

A. 「学校法人」とは、私立学校法の定めるところにより設立される法人で、この学校法人の設置する学校が、私立学校です。学校法人は、独立採算性を基本としています。

Q3. 独立行政法人化されると国立の学校ではなくなるのですか。

A. 国立高等専門学校は、新たに設立された「独立行政法人国立高等専門学校機構」が設置する学校になります。

学校設置の形態が変わるだけで、国立に変わりありません。

Q4. 学校の名称はどうなるのでしょうか。

A. 正式な名称は、『独立行政法人 国立高等専門学校機構 徳山工業高等専門学校』になります。しかし、今まで通りに『徳山工業高等専門学校（略称：徳山高専）』で通用します。

Q5. 学校の仕組み（高専本科5年間と専攻科2年間）は変わるのでしょうか。

A. 今までと変わりません。

Q6. 授業料は大幅に上がっていませんか。

A. 大幅に上がることはありません。

Q7. 教育の質は変わりますか。

A. 独立行政法人化のねらいは、高等専門学校の教育の個性化、活性化、高度化です。

今まで以上に柔軟な運営により、教育の質はさらに向上することになります。

独立行政法人化後は、定期的に国立高等専門学校機構などにより評価を受けることになっています。

Q8. 大学編入や就職への影響はありませんか。

A. 独立行政法人化をすることが、大学編入や就職に影響をおよぼすことはありません。

Q9. 学校生活に大きな変化はありますか。

A. 大きな変化はありません。

課外活動（クラブ活動等）も、今まで通りに活動ができます。

Q10. 入学試験の方法は変わりますか。

A. 現在のところ変わる予定はありません。

なお、国立大学（国立高等専門学校含む）の法人化については、文部科学省のホームページにも詳しい情報が載せられています。ご参照ください。

(<http://www.mext.go.jp/>)

お知らせ

徳山高専夢広場 について

サテライト運営委員長

土木建築工学科 教授 **工藤 洋三**



昨年の11月29日、徳山高専の教育・研究をはじめとする文化活動を地域に向けて発信し、合わせて中心市街地の活性化に貢献することを目的に徳山高専夢広場がオープンしました。TMO徳山の交流施設「ふれあいパーク街あい」（銀座一番街旧近棟電器）の中にあります。ここを拠点に、徳山高専の文化活動の紹介や学生の学習成果の発表、市民を対象としたミニ講座などを行うことにしています。

すでに12月には液体窒素を使って超低温の世界を体験する講座、1月には「竹とんぼ親子体験教室」が開催され、2月29日には電子工作教室「簡単おもしろロボット大作戦！」を開催する予定です。

1月8日には高専夢広場を運営していくサテライト委員会の委員17名に対して辞令が交付され活動を開始しました。その後学生の委員が2名増えて現在19名です。現在、来年度の活動や運営方法について話し合いを行っています。

「夢広場」では、年に5～6回の大きな催し物と、その催し物の間に各種の展示・イベントを行いたいと考えています。企画の大小を問わず、所属の学科、各研究室、各クラブや同好会で取り組める企画がある場合はサテライト委員に、あるいは直接電子メールでお知らせください。徳山高専の後援会や保護者の方々の企画も歓迎です。

現在は、TMO徳山、「それいけ！「ロボコン」周南応援隊」、徳山高専後援会の協賛を得て、予約販売キャンペーン『映画「ロボコン」がDVDで帰ってくる！』を行っています。周南地域と徳山高専ですべてのロケが行われたこの映画のDVD

を普及することは、徳山高専と周南地域をさらに多くの方々に知っていただく良い機会になると考えています。

DVDは予約を集約した後、3月26日（金）9時30分から「ふれあいパーク・街あい（徳山高専夢広場）」で販売を開始する予定です。DVD販売をより効果的にするため、映画「ロボコン」の古厩監督にご足労いただいてムードを盛り上げ、サインセールやトークショーを行う企画が進んでいます。各種メディアにも取材をお願いすることになっています。

「徳山高専夢広場」を日常的な交流の場にするために取り組んでいるのが、2月6日から始まった「いんぐりっしゅ☆る～む」です。これは「夢広場」が駅に近いことを利用して、徳山高専の学生を中心に英会話を学ぶサークルです。最初の2か月間試行的に行いますが、一般科目の国重先生と天野校長が担当します。学校の授業とはひと味違う、和気あいあいとした雰囲気の中で（使用できる言語は英語だけという制約はありますが）英会話の達人を目指するという企画です。今後はこうした常設のサークルの設置にも力を入れて、徳山高専の教職員・学生と市民の方々のふれあいの場にしたいと考えています。



<http://www.tokuyama.ac.jp/yumehiroba/>

編集後記

毎年、年の瀬に「今年の漢字」が発表されます。それに倣って、徳山高専のこの一年を振り返って漢字で表すと、何があてはまるでしょうか。間違いなく、【動】があてはまるでしょう。本誌の、「徳山高専この一年」のページを見ても、それが解ることと思います。

教育環境を取り巻く流れが刻々と変わりつつある現在、この【動】は、おそらくほんの序章にすぎないでしょう。来年度は、徳山高専も独立行政法人化されます。法人化ばかりではありませんが、今後も大なり小なりの動きがあることが予想されます。

そして、来年度（2004年6月）に、徳山高専は創立30周年を迎えます。

よき伝統を継承しつつ、世の中の動きにも前向きにまた臨機応変に対応し、進化しつづける学校でありたいものです。

（編集：総合企画室）

徳山工業高等専門学校 Tokuyama College of Technology

徳山高専だより No.57

発行 総合企画室

所在地 〒745-8585 山口県周南市久米高城3538

T E L (0834)-29-6200(代表)

印刷 大村印刷(株)

発行日 2004年(平成16年)3月15日

U R L <http://www.tokuyama.ac.jp/>

Tokuyama College of Technology

